

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-186912

(P2001-186912A)

(43)公開日 平成13年7月10日(2001.7.10)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

A 45 B 11/00

F I

A 45 B 11/00

マーク(参考)

A 3 B 1 0 4

審査請求 未請求 請求項の数7 書面 (全9頁)

(21)出願番号 特願2000-172706(P2000-172706)

(71)出願人 599090431

豊田 一男

東京都板橋区新河岸2-10-1-202

(22)出願日 平成12年5月8日(2000.5.8)

(71)出願人 599164499

斎藤 淳司

東京都足立区江北1-31-2-202

(31)優先権主張番号 特願平11-333214

(72)発明者 豊田 一男

東京都板橋区新河岸2-10-1-202

(32)優先日 平成11年10月19日(1999.10.19)

(72)発明者 斎藤 淳司

東京都足立区江北1-31-2-202

(33)優先権主張国 日本 (JP)

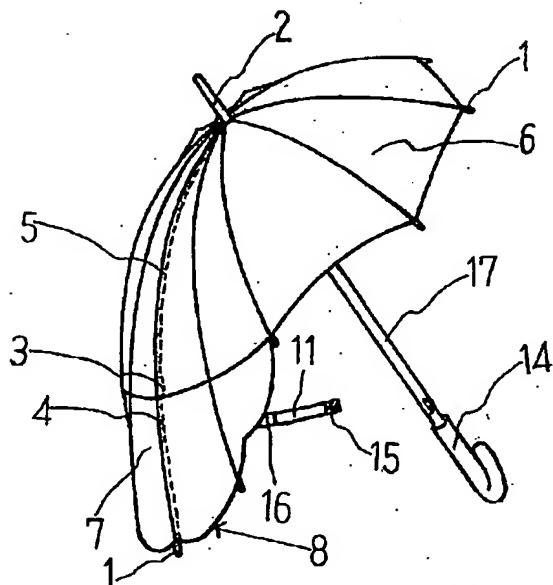
Fターム(参考) 3B104 EAD4 EA05

(54)【発明の名称】 つばを有する傘

(57)【要約】

【課題】 傘使用時、雨や傘から滴り落ちた雨水が衣服の部分箇所や所持品に付着し濡れる事態を阻止すると共に、折りたたんだ濡れ傘を所持する際におきがちな他者、物に接触し雨水を付着させる事態を防止させるつばを有する傘の提供。

【解決手段】 親骨5とつば骨4を手動折曲具3で連結した骨組みもしくは、補助骨19、親骨5、つば骨4を自動折曲具10で連結した骨組みで、傘につば8を設置して手動及び自動でつば8が折曲開閉する機構にし、つば8で折りたたみ時の傘を被覆し傘カバーとなる構成及び、つば8裏面に備えたカバー布32で折りたたみ時の傘とつば8を接着し傘カバーとなる構成。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 傘の一部先端つゆ先(1)位置に設置した手動折曲具(3)に親骨(5)とつば骨(4)を連結し、つば骨(4)が折曲する機構であり、つば骨(4)に傘布(6)と繋げたつば布(7)を張って固定し、傘開閉時につば(8)を手動で折曲開閉させることを特徴としたつばを有する傘。

【請求項2】 傘の一部先端つゆ先(1)位置に自動折曲具(10)を設置し、ストレッチャー(9)に係止した補助骨(19)、親骨(5)、つば骨(4)を自動折曲具(10)に連結して、傘開閉時に自動折曲具(10)に連結したつば骨(4)が自動折曲具(10)と共に折曲する機構であり、つば骨(4)に傘布(6)と繋げたつば布(7)を張って固定し、傘を開くことでつば(8)も自動的に開かれる状態になる、傘につば8を備えたことを特徴としたつばを有する傘。

【請求項3】 傘の一部先端つゆ先(1)位置に親骨(5)とつば骨(4)を連結する手動折曲具(3)もしくは、ストレッチャー(9)に係止した補助骨(19)、親骨(5)、つば骨(4)を連結する自動折曲具(10)で、つば骨(4)を手動及び自動で折曲する機構にし、つば骨(4)に傘布(6)と繋げたつば布(7)を張って固定した構成のつば(8)全体で折りたたみ時の傘を被覆し、つば(8)に備えた結束バンド(26)、(29)で括ることで、折りたたみ時の傘カバーとなることを特徴としたつばを有する傘。

【請求項4】 傘の一部先端つゆ先(1)位置に親骨(5)とつば骨(4)を連結する手動折曲具(3)もしくは、ストレッチャー(9)に係止した補助骨(19)、親骨(5)、つば骨(4)を連結する自動折曲具(10)で、つば骨(4)を手動及び自動で折曲する機構にし、つば骨(4)に傘布(6)と繋げたつば布(7)を張って固定し、つば布(7)裏面に設置したカバー布(32)で折りたたみ時の傘及びつば(8)を被覆し、カバー布(32)に備えた結束バンド(37)で括ることで、折りたたみ時の傘とつば(8)の傘カバーになることを特徴としたつばを有する傘。

【請求項5】 カバー布(32)の上下縁凸部(46)、(47)の先端にギャザー(42)、(43)をよせ、ボタン(50)、(51)、(52)、(53)を設置し、折りたたみ時の傘とつば(8)を被覆し傘カバーとしての巻装及び、捲着を強化したことを特徴とした請求項4に記載のつばを有する傘。

【請求項6】 折りたたんだカバー布(32)を収納するためのカバーポケット(41)を、つば布(7)裏面カバー布(32)の設置位置に付設したことを特徴とした請求項4に記載のつばを有する傘。

【請求項7】 手動折曲具(3)、自動折曲具(10)及び、補助骨(19)、親骨(5)、つば骨(4)の一部分を伸縮性のソフトカバー(48)で被覆したこ

とを特徴とした請求項1、2、3、4に記載のつばを有する傘。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、傘につばを備えたことを特徴とするつばを有する傘に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の傘は、色柄、サイズ等は異なるが手動開閉式、自動開閉式で傘が開くもの、シャフトが折り曲がるもの、シャフトが伸縮するもので傘を所持する際にコンパクトに収納できるものがあるが、傘を開いた際は形状的には大差がない、円形状でシャフト及びハンドルが傘の中心に位置する。

【0003】

【発明の解決しようとする課題】しかしながら、上記のような構成の傘では、傘を開いた際の使用時、傘を閉じた際の折りたたみ時に多種問題が発生する。例えば、シャフトが中心に位置するため、傘を反って持ちすぎた時などは身体の部分個所が傘外部にはみでる状態になり、傘で身体を全て覆いきれず雨に濡れる。

【0004】また、傘に降り落ちた雨が滴り落ち肩、背中部分の衣服に雨水が付着し濡れる。さらに、暴風雨等の状況下では特にひどく従来の傘では、横殴りの風雨を防ぐことが困難なため衣服が雨でびしょ濡れになることが多い。

【0005】そして、多くの人で混雑する場所やバス等の車中などに、雨が付着した折りたたみ時の濡れ傘を持ち込むことになるが、他者の衣服や所持品について濡れ傘が付着することで、衣服等が汚れトラブルに発展することが多い。

【0006】

【課題を解決するための手段】つばを傘に設置するため、従来はつゆ先が存在した位置に手動折曲具を備え親骨とつば骨を連結し、つば骨を折曲することで手動折曲具を軸としてつば骨が上下に折り曲がる形態の骨組を3本等間隔幅で、傘布と繋げたつば布に架け渡し手動折曲具、つば骨、つば骨先端のつゆ先でつば布を部分的に衝止し、折曲するつばを傘に設置した構成であり、傘につばを備えたことで雨から傘利用者を保護する表面積を広くした。

【0007】つばを傘に設置するため、従来はつゆ先が存在した位置に自動折曲具を備え、自動折曲具にストレッチャーに係止した補助骨、親骨、つば骨の先端を全てが関連作動する機構で軸止めしあい、傘を開く際の力が自動折曲具、補助骨、親骨、つば骨に連動し加わることで自動折曲具とつば骨が上下に折曲する構成で、その構成の骨組みを3本等間隔幅で傘布と繋げたつば布に架け渡し自動折曲具、つば骨、つば骨の先端つゆ先でつば布を部分的に衝止し、折曲するつばを傘に設置して傘の開閉に合わせつばも自動的に折曲開閉されるものであり、

雨から傘利用者を保護する表面積を広くした。

【0008】従来はつゆ先が存在した位置に手動折曲具か自動折曲具を設置し、手動折曲具、親骨、つば骨を連結した骨組みもしくは、自動折曲具、ストレッチャーに係止した補助骨、親骨、つば骨を連結した骨組みで、つば骨が上下に折曲する機構にし、手動、自動折曲具のどちらかの骨組みを3本等間隔幅で傘布と繋げたつば布に架け渡し手動、自動折曲具、つば骨、つば骨の先端つゆ先でつば布を部分的に衝止し、つばを設置した構成の傘において、手動及び自動で折曲するつばが折りたたみ時の傘を被覆し傘カバーとして機能するものである。

【0009】従来はつゆ先が存在した位置に手動折曲具か自動折曲具を設置し、手動折曲具、親骨、つば骨を連結した骨組みもしくは、自動折曲具、ストレッチャーに係止した補助骨、親骨、つば骨を連結した骨組みで、つば骨が上下に折曲する機構にし、手動、自動折曲具のどちらかの骨組みを3本等間隔幅で傘布と繋げたつば布に架け渡し手動、自動折曲具、つば骨、つば骨の先端つゆ先でつば布を部分的に衝止し、つばを設置した構成の傘において、手動及び自動で折曲するつば裏面にカバー布を備え、カバー布でつば及び折りたたみ時の傘を捲着することで傘カバーとなり、雨で濡れた折りたたみ時の傘を所持する際、濡れ傘が他者に付着する事態を回避させるものである。

【0010】カバー布で折りたたみ時の傘とつばを捲着する際、折りたたみ時の傘とつばにぴったり沿う形状でカバー布を捲着できる状態にするため、カバー布の上下縁凸部の先端にギャザーを内側にカールする形態で加工を施したこと、折りたたみ時の傘とつばにカバー布がぴったり沿って捲着強化できる。

【0011】カバー布が傘カバーとしての機能を終えた際に、折りたたみ丸めて収納するためのカバーポケットであり、傘使用時は、常時カバーポケット内にカバー布がコンパクトに収納される。

【0012】手動折曲具、自動折曲具及び連結した各種関連骨の一部分をソフトカバーで被覆し、自動折曲具、手動折曲具に連結したつば骨を折曲する際または折曲される際に、間違えて指を挟まれても怪我をしないように指先保護の安全対策である。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明の、つばを有する傘の製作に当たっては、各種骨組み及び各パーツ部を木、または金属、合成樹脂等材質で成型し、傘布6、つば布7、カバー布32に関しては、布地の表面及び表裏面をフィルムで覆うラミネート加工や撥水コーティング加工を施し、雨に対する撥水機能を持たせ製作する方法及び、そぐに撥水性を備えている軟質合成樹脂のナイロン等フィルム、シートで製作する方法がある。

【0014】次に、つば布7とつば骨4の固着方法としては、つば布7を二枚重合させ、自動折曲具10または

手動折曲具3で連結したつば骨4を、重合させたつば布7に介在挿着させる方法、つば布7につば骨4を挿入固定する嵌通具を備える方法、また自動折曲具10または手動折曲具3、つば骨4、つば骨4の先端に位置するつゆ先1でつば布7を部分的に衝止する方法など多種考えられる。

【0015】また、つば8の縁につば形状を整わせる目的で形状記憶合金を装着する方法もある。

【0016】次に、折りたたんだ際の傘とつば8をカバーブ32で捲着強化させる目的で凸部46、47の先端に備えたギャザー42、43の他に、伸縮性を備えた撥水性のアリーツ地を使用する方法、紐材等を凸部46、47の先端に介在させしめる方法などがある。

【0017】次に、親骨5、つば骨4、補助骨19を連結する自動折曲具10に関しては、補助骨19を必要としない自動折曲具10を使用する方法もある。

【0018】また、つば骨4を傘の内側に折曲する形態で手動折曲具3に連結することで、傘カバーとしての機能は失うが、つば8を必要時の機能させる方法もある。

【0019】次に、つば布7裏面に設けた、カバー布32を納めるカバーポケット41の他に、カバー布32を丸めて紐材等で結束し、つば布7裏面に固着する方法もある。

【0020】次に、傘とつば8に架け渡し、つば骨4が折曲する形態の骨組みは3本から4本が望ましいが、デザイン性や機能性に合わせて骨組みの長さ、間隔幅、設置本数を変更することもできる。

【0021】その他、つばを有する傘の色柄、細部形状、細部構造等に関しては、本発明の要旨を逸脱しない範囲において限定しない。

【0022】

【実施例】実施例について図面を参照して説明する。図1は請求項1記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図である。傘を開いたあと手動でつば8も開いた状態であり、従来の傘よりはるかに傘利用者の身体を雨から保護する構造となっている。また、折りたたみ時の傘とつば8を束ねるための結束バンド11を、つば8の縁に備えている。更に、二人で合い傘として利用する際も、雨に濡れる心配がなく利便に活用できる傘である。

【0023】図2は請求項1記載のつばを有する傘をすばめた際の斜視図である。手動折曲具3で親骨5とつば骨4を連結した骨組みを、傘布6からつば布7に3本等間隔幅で架け渡し、手動折曲具3を軸として上下に折曲するつば骨4を折り曲げ、つば8の機能を停止させた状態である。また、手動折曲具3の折曲する向きを逆方向にしてつば骨4に連結することで、つば8が傘の内側に折曲し収納される形態にもなる。

【0024】図3は請求項1記載のつばを有する傘の手動折曲具3の説明図である。つば骨4をつば骨固定部3

Eに固定着、親骨5を親骨固定部3Fに固定着し、つば骨固定部3Eの後部を溝3Cに嵌入し、溝3Cとつば骨固定部3Eを溝3Cの側面外観から軸3Dで軸着した状態を示している。この図が、つば8の機能を停止させた状態の手動折曲具3の形状である。また、つば骨4の湾曲度を変更することで容易につば8の曲がり形状を変更調整できる。

【0025】図4は請求項1記載のつばを有する傘の手動折曲具3の説明図である。軸3Dで軸着したつば骨固定部3Eの側面に凸部3Aを備え、溝3Cの側面に備えた穴3Bに凸部3Aを嵌合した状態を示している。この図が、つば8を機能させた状態の手動折曲具3の形状である。つば骨4を持ち、穴3Bに凸部3Aを嵌脱することで容易につば骨4を折曲でき、穴3Bが凸部3Aのスッターパーの役割をしている。

【0026】図5は請求項1記載のつばを有する傘の縦断面図である。シャフト17の一部を切断し傘内側裏面の状態を示した。手動折曲具3に連結した親骨5とつば骨4の骨組みを3本等間隔幅で傘布6、つば布7に架け渡し、架け渡した3本の親骨5上部先端をノッチ12に係止した。また、つば8のデザイン形状に合わせ上記骨組みを増減することも可能である。

【0027】図6は請求項2記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図である。傘を開くことでつば8も自動的に開かれる状態になり、つば布7及び、つば布7と繋げた傘布6の部分箇所を透明、色透明にすることで、つば8を前方に向けた状態で使用する際でも、前方の見通しがきく状態になり、前方から吹き付ける風雨から身体を保護することになる。また、形状を大きくして製作することでビーチパラソルとしても利用でき、つば8が日差しを遮る日除け機能を果たすことになる。

【0028】図7は請求項2記載のつばを有する傘をすばめた際の斜視図である。傘の開閉に連動してつば8も自動的に開閉する機構であり、ストレッチャー9に係止した補助骨19、親骨5、つば骨4を自動折曲具10に連結した骨組みを傘布6からつば布7に3本等間隔幅で架け渡し、自動折曲具10と共に上下に折曲するつば骨4が折り曲がり、傘につば8が付着する寸前の状態を示した。

【0029】図8は請求項2記載のつばを有する傘の自動折曲具10の説明図である。ストレッチャー9に係止した補助骨19、親骨5、つば骨4を自動折曲具10に連結しようとした状態を示している。つば骨4を自動折曲具10の先端に備えた角穴10Aに嵌挿し、自動折曲具10の両側面に備えた穴10B、親骨5先端に備えた穴24、つば骨4に備えた穴4Aを重合させ軸22で軸着することで自動折曲具10、親骨5、つば骨4を連結することができる。次に、補助骨19に備えた穴49、自動折曲具10の両側面に備えた穴10Cを重合させ軸23で軸着することで自動折曲具10と補助骨19を連結

することができる。次に、補助骨19の先端に備えた穴25、つば骨4に備えた穴4Bを重合させ軸21で軸着することで補助骨19とつば骨4を連結することができる。補助骨19、親骨5、つば骨4、自動折曲具10の全てを連結することで関連作動しあい自動折曲具10と共につば骨4が上下に折曲する機構になる。

【0030】図9は請求項2記載のつばを有する傘の自動折曲具10の説明図である。ストレッチャー9に係止した補助骨19、親骨5、つば骨4、自動折曲具10を各軸止めして連結した状態を示している。この連結した状態ではじめて自動折曲具10と共につば骨4が上下に折曲する機構になる。

【0031】図10は請求項2記載のつばを有する傘の骨組みの説明図である。ストレッチャー9、補助骨19、親骨5、つば骨4、自動折曲具10を連結した骨組みをノッチ12及びランナー13に係止した状態を示している。傘を閉じた際や半開き状態時のつば骨4は、自動折曲具10の作用で常時上方に折曲された状態を保持する。このつば骨4の状態がつば8が折りたたまれている際の形状である。

【0032】図11は請求項2記載のつばを有する傘の骨組みの説明図である。傘を開く際の力がストレッチャー9から親骨5、補助骨19に加わり、親骨5と補助骨19の間隔幅が狭まる同時に親骨5が湾曲された状態になり、軸23を基点とし自動折曲具10が下方に折曲されることで、自ずと自動折曲具10先端の角穴10Aに嵌挿し、軸22、21で軸着したつば骨4も下方に折曲する。このつば骨4の状態がつば8が開かれ機能した際の形状である。

【0033】図12は請求項3記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図である。つば8の縁に結束バンド26、29を備えたことを示している。つば8を傘カバーとして機能させる際の結束を強化する目的であり、また、つば8を傘に設置する方法としては、手動折曲具3及び自動折曲具10の骨組みを利用し設置する。

【0034】図13は請求項3記載のつばを有する傘をすばめた際の斜視図である。折りたたみ時の傘をつば8で被覆し傘カバーとしての機能を十二分発揮させるため、つば骨4及びつば8を長くした状態を示している。

つば骨4及びつば8を長くしたことで、容易に折りたたみ時の傘をつば8で被覆できる状態になる。

【0035】図14は請求項3記載のつばを有する傘を折りたたみつば8で被覆した状態の斜視図である。折りたたんだ傘をつば8で巻回被覆し結束バンド26、29で結束した状態を示している。つば8のつば布7裏面が傘カバーとしての外観面になり、雨水が付着した傘布6表面を雨水が付着したつば布7表面で包み収納する状態になることで、折りたたみ時の傘が他者や他者の所持品に接触しても、接触当面に雨水が付着することがない。

【0036】図15は請求項4記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図である。傘につば8を手動折曲具3及び自動折曲具10を利用した構成の骨組みで設置し、つば8の縁に縁取り33を施し、折りたたんだ傘とつば8を結束する結束バンド34をつば8の縁に備えた状態を示している。縁取り33はデザイン的要素でありこの他にも多種装飾方法が考えられる。

【0037】図16は請求項4記載のつばを有する傘のつば8裏面の図である。つば8裏面に設置したカバー布32を折りたたみ、請求項6に記載のカバーポケット41に収納し蓋44を被せフックボタン40、45を止め固着した状態を示している。また、カバーポケット41は、つば8のデザイン形状で設置する位置を変更できる。

【0038】図17は請求項4記載のつばを有する傘をすぼめてカバーポケット41からカバー布32を引き出した状態の斜視図である。カバー布32が収納されているカバーポケット41からカバー布32を引き出し、傘にカバー布32を巻回することで容易に傘カバーとなる。また請求項4に記載のギャザー43、44をカバー布32の凸部47、46の先端によせ、凸部巻回固定用のボタン50、51を凸部47に、ボタン52、53を凸部46に備えた。

【0039】図18は請求項4記載のつばを有する傘を折りたたみカバー布32で捲着した状態の斜視図である。カバー布32を折りたたんだ傘とつば8に捲着し、カバー布32の凸部47、46に備えたボタン50、51とボタン52、53を嵌合しあい固定し、結束バンド37で結束した状態である。石突き2とハンドル14以外の全てをカバー布32で覆う形態になことで、傘が他人者や他の所持品に接触しても接触当り面に雨水が付着することがない。

【0040】図19は請求項1、3、4に記載のつばを有する傘の手動折曲具3を請求項7に記載のソフトカバー48で被覆した状態の斜視図である。折曲する手動折曲具3と手動折曲具3に連結した親骨5、つば骨4の一部分をソフトカバー48で覆い、つば骨4折曲時に指を挟まれても怪我をしないようにクッション材の役割を果たす安全面に配慮した状態を示している。

【0041】図20は請求項2、3、4に記載のつばを有する傘の自動折曲具10を請求項7に記載のソフトカバー48で被覆した状態の斜視図である。折曲する自動折曲具10と自動折曲具10に連結したつば骨4、親骨5、補助骨19の一部分をソフトカバー48で覆い、傘開閉時に自ずと折曲する自動折曲具10及びつば骨4に、指を挟まれても怪我をしないようにクッション材の役割を果たす安全面に配慮した状態を示している。また、ソフトカバー48の素材は軟質合成樹脂、発泡ゴム等多種素材が考えられる。

【0042】

【発明の効果】本発明は以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

【0043】傘に降り落ちた雨が滴り落ち、衣服の部分箇所に雨水が付着し漏れることなくなる。また、幼児を背負って傘を使用する際などは、つばが幼児の全身を雨から保護する。

【0044】暴風雨時等の横殴りの風雨に、つばを向かい合わせて傘を使用することで雨から身体を保護するため的な役割をする。

10 【0045】傘使用時の所持品、書類、ハンドバッグ、ショルダーバッグ等が雨で漏れ汚損されることがなくなる。

【0046】傘折りたたみ時、つばが漏れ傘を被覆し傘カバーとなることで、折りたたんだ傘が他者に接触する事態になっても、接触箇所が雨水で汚損されることがなくなる。

20 【0047】つば裏面に設けたカバー布で、雨水が付着した折りたたみ時の傘とつばを被覆し傘カバーとなるので傘袋が不要となる。また、傘カバーした傘を所持できることで、他者は勿論本人も傘に付着した雨水で汚損される心配がなくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図

【図2】請求項1記載のつばを有する傘をすぼめた際の斜視図

【図3】請求項1記載のつばを有する傘の手動折曲具3の説明図

30 【図4】請求項1記載のつばを有する傘の手動折曲具3の説明図

【図5】請求項1記載のつばを有する傘の縦断面図

【図6】請求項2記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図

【図7】請求項2記載のつばを有する傘をすぼめた際の斜視図

【図8】請求項2記載のつばを有する傘の自動折曲具10の説明図

【図9】請求項2記載のつばを有する傘の自動折曲具10の説明図

40 【図10】請求項2記載のつばを有する傘の骨組みの説明図

【図11】請求項2記載のつばを有する傘の骨組みの説明図

【図12】請求項3記載のつばを有する傘を開いた際の斜視図

【図13】請求項3記載のつばを有する傘をすぼめた際の斜視図

【図14】請求項3記載のつばを有する傘を折りたたみつば8で被覆した状態の斜視図

50 【図15】請求項4記載のつばを有する傘を開いた際の

斜視図

【図16】請求項4記載のつばを有する傘のつば8裏面

の図

【図17】請求項4記載のつばを有する傘をすばめカバーポケット41からカバー布32を引き出した状態の斜視図

【図18】請求項4記載のつばを有する傘を折りたたみカバー布32で接着した状態の斜視図

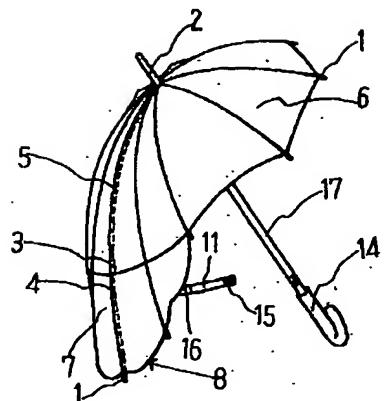
【図19】請求項1、3、4に記載のつばを有する傘の手動折曲具3を請求項7に記載のソフトカバー48で被覆した状態の斜視図

【符号の説明】

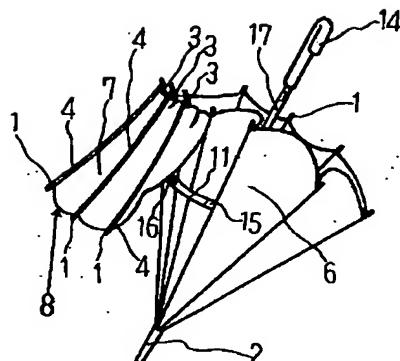
- 1 つゆ先
- 2 石突き
- 3 手動折曲具
- 3A 凸部
- 3B 穴
- 3C 溝
- 3D 軸
- 3E つば骨固定部
- 3F 親骨固定部
- 4 つば骨
- 4A 穴
- 4B 穴
- 5 親骨
- 6 傘布
- 7 つば布
- 8 つば
- 9 ストレッチャー
- 10 自動折曲具
- 10A 角穴
- 10B 穴
- 10C 穴
- 11 結束バンド
- 12 ノッチ
- 13 ランナー
- 14 ハンドル

| | |
|-------|---------|
| 15 | 着脱具 |
| 16 | 着脱具 |
| 17 | シャフト |
| 18 | 軸 |
| 19 | 補助骨 |
| 20 | 軸 |
| 21 | 軸 |
| 22 | 軸 |
| 23 | 軸 |
| 10 24 | 穴 |
| 25 | 穴 |
| 26 | 結束バンド |
| 27 | 着脱具 |
| 28 | 着脱具 |
| 29 | 結束バンド |
| 30 | 着脱具 |
| 31 | 着脱具 |
| 32 | カバー布 |
| 33 | 縫取り |
| 20 34 | 結束バンド |
| 35 | 着脱具 |
| 36 | 着脱具 |
| 37 | 結束バンド |
| 38 | 着脱具 |
| 39 | 着脱具 |
| 40 | フックボタン |
| 41 | カバーポケット |
| 42 | ギャザー |
| 43 | ギャザー |
| 30 44 | 蓋 |
| 45 | フックボタン |
| 46 | 凸部 |
| 47 | 凸部 |
| 48 | ソフトカバー |
| 49 | 穴 |
| 50 | ボタン |
| 51 | ボタン |
| 52 | ボタン |
| 53 | ボタン |

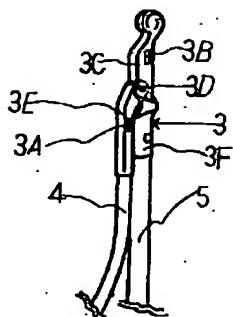
【図1】



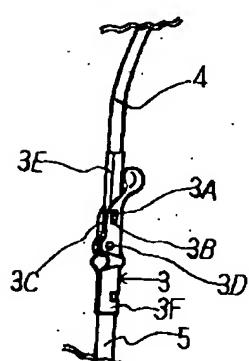
【図2】



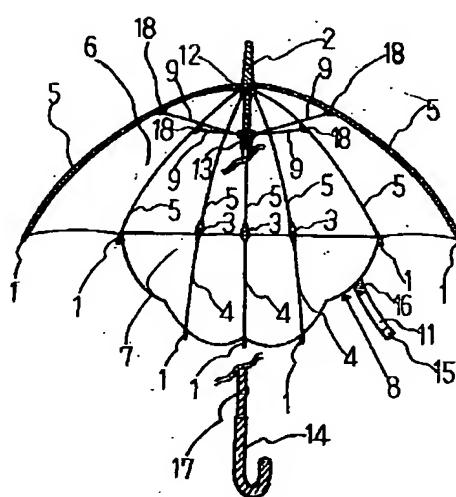
【図3】



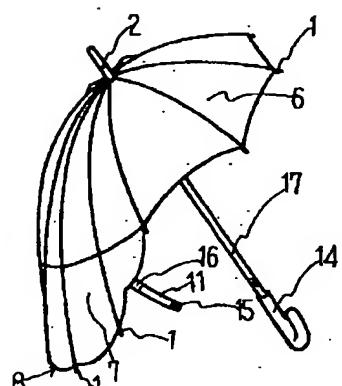
【図4】



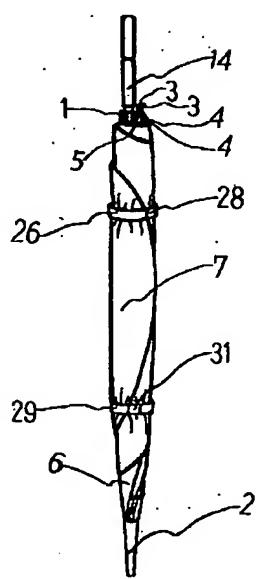
【図5】



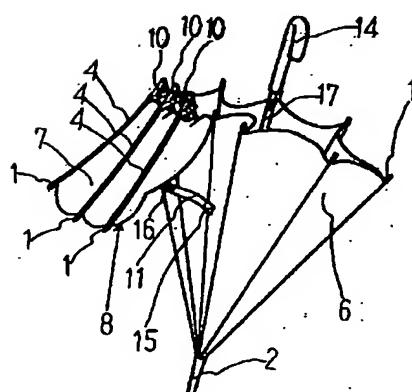
【図6】



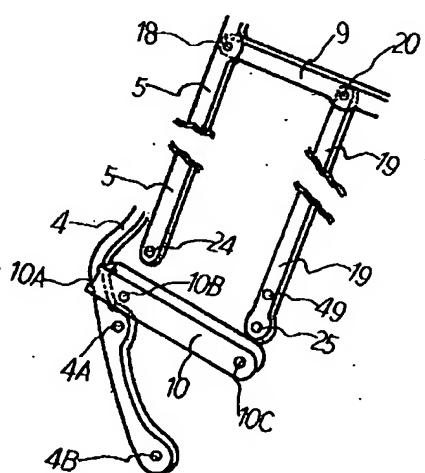
【図14】



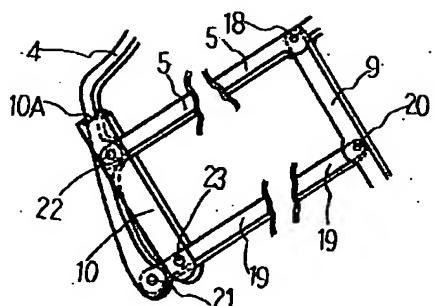
【図7】



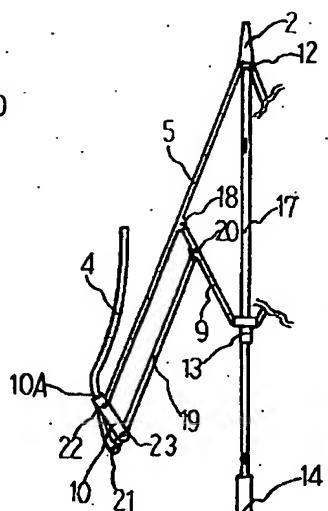
【図8】



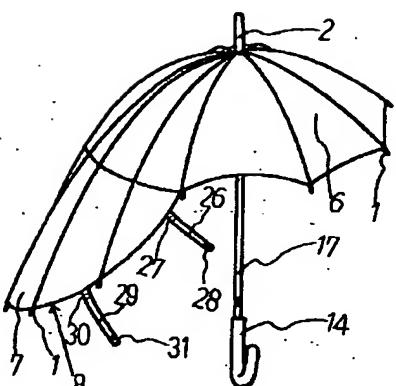
【図9】



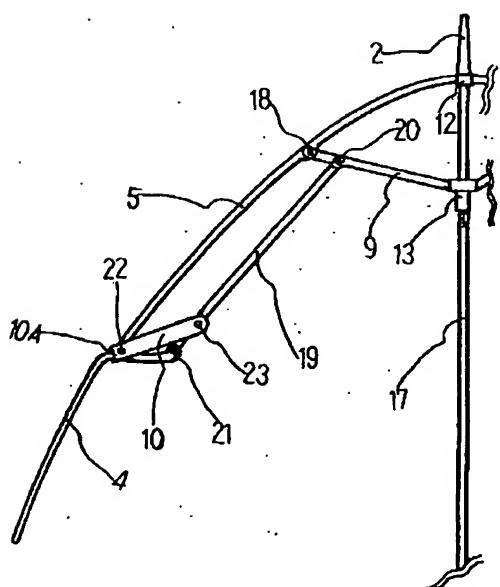
【图10】



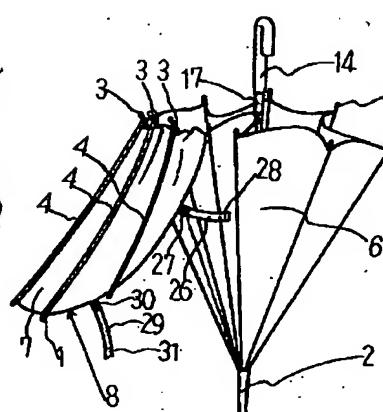
【图12】



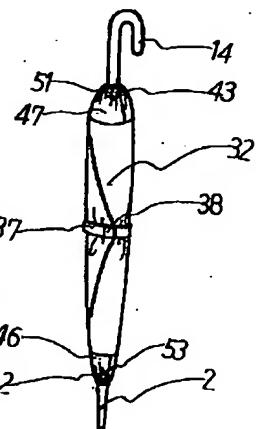
【图11】



【图13】

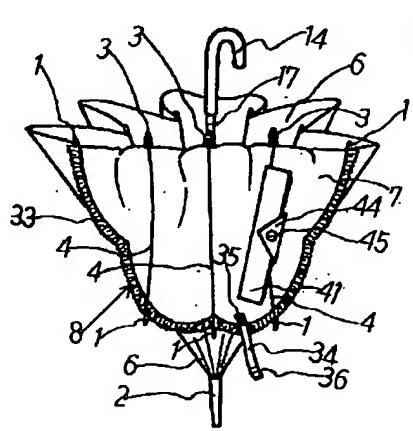


【图18】

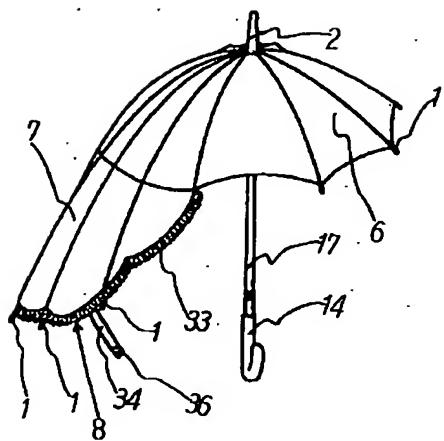


〔図19〕

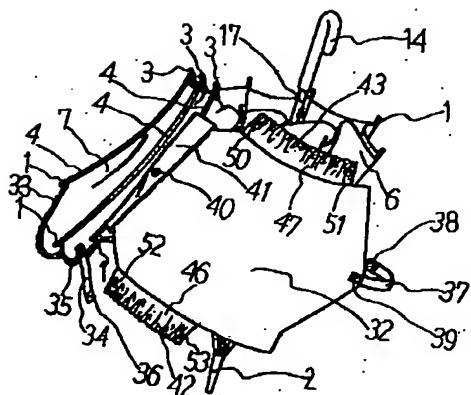
[图16]



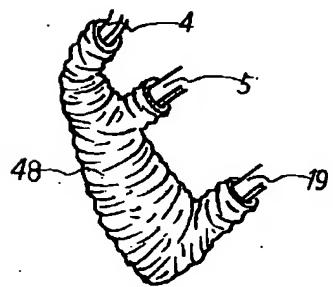
【図15】



【図17】



【図20】



PAT-NO: JP02001186912A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001186912 A

TITLE: UMBRELLA WITH BRIM

PUBN-DATE: July 10, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

| NAME | COUNTRY |
|---------------|---------|
| TOYODA, KAZUO | N/A |
| SAITO, KYOJI | N/A |

ASSIGNEE-INFORMATION:

| NAME | COUNTRY |
|--------------|---------|
| TOYODA KAZUO | N/A |
| SAITO KYOJI | N/A |

APPL-NO: JP2000172706

APPL-DATE: May 8, 2000

PRIORITY-DATA: 11333214 (October 19, 1999)

INT-CL (IPC): A45B011/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an **umbrella** preventing raindrops dripped from rain or the **umbrella** from sticking and wetting a part of clothes or the belongings in using the **umbrella** and to prevent the **umbrella** from touching another person or material and the raindrops from sticking to them, which is apt to happen in holding a folded wet **umbrella**.

SOLUTION: This **umbrella** has a **skeleton** connecting the rib 5 to a brim rib 4 by a manual folding tool 3 or connecting an auxiliary rib 19, the rib 5, and the brim rib 4 together by an automatic folding tool 10 and has such a mechanism as providing a brim 8 to the **umbrella** and manually or automatically folding/opening the brim 8. It is so constituted that the brim 8 covers the **umbrella** in an folded state so as to be functioned as an **umbrella** cover or a cover cloth 32 provided in the rear face of the brim 8 wound around the **umbrella** in the folded state and the brim so as to serve as the **umbrella** cover.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO